

先の 10 月 18 日(日)に行われた新試験制度 2 回目となる平成 21 年秋期の情報処理技術者試験について、先月発表された IT パスポート/基本情報技術者試験以外の 6 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、システムアーキテクト試験の合格発表コメントをお知らせします。

■システムアーキテクト試験 (SA)

[平成 21 年秋期のシステムアーキテクト試験 統計情報]

応募者	13,056 人
受験者	8,395 人
合格者	1,112 人
合格率	13.2%

システムアーキテクト試験は従来のアプリケーションエンジニア試験と同等のレベルで実施される試験で、内容的には全体最適化の観点からの情報システムの構造設計、対象システムのシステム方式設計分野を明確化して重視することになっています。また、組込みシステムのアーキテクチャ設計問題も選択の一つとして出題されます。新試験から従来の午前試験が午前 I (共通知識) と午前 II (専門知識) の試験に分かれました。

第 1 回目の実施となった平成 21 年秋期のシステムアーキテクト試験では、昨年の平成 20 年秋期のアプリケーションエンジニア試験に比べ応募者が 2,000 人弱増えました。合格率は昨秋の 11.3%より 2%ほど増加し 13.2%でした。

[午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題)]

- ・高度試験に共通して出される問題 30 問は、前回の試験と同様にすべて応用情報技術者試験 (AP) から選ばれていました。過去問題の比率は 6 割弱で従来よりも減少傾向にあります。
- ・分野別の出題比率も前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類から最低 1 問出題されています。今回の試験で 2 問出題された中分類は次のとおりです。

(2 問出題された中分類)

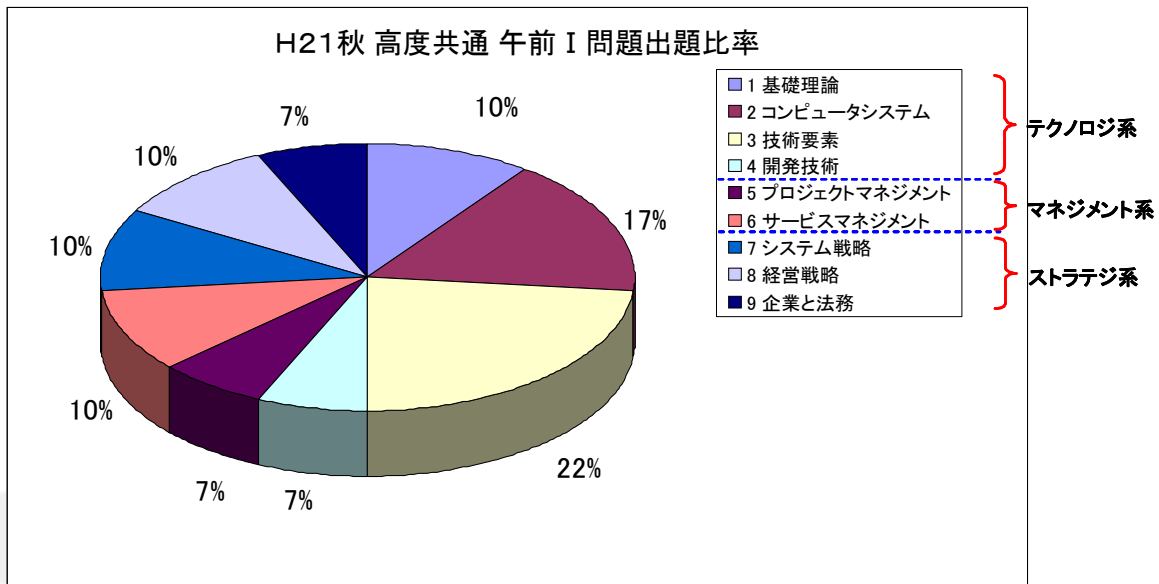
基礎理論, システム構成要素, データベース, セキュリティ, プロジェクトマネジメント, サービスマネジメント, システム戦略

- ・新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

(新傾向問題)

- 問 3 (=AP 問 5) 連結リストの処理時間,
- 問 9 (=AP 問 25) Web アクセシビリティ,
- 問 18 (=AP 問 51) アードバリュウ分析,
- 問 21 (=AP 問 57) ITIL のプロセス,
- 問 22 (=AP 問 59) 監査調書,
- 問 23 (=AP 問 62) ビジネスアーキテクチャ,
- 問 25 (=AP 問 67) RFI

平成 21 年秋期の高度試験共通 午前 I 問題出題比率

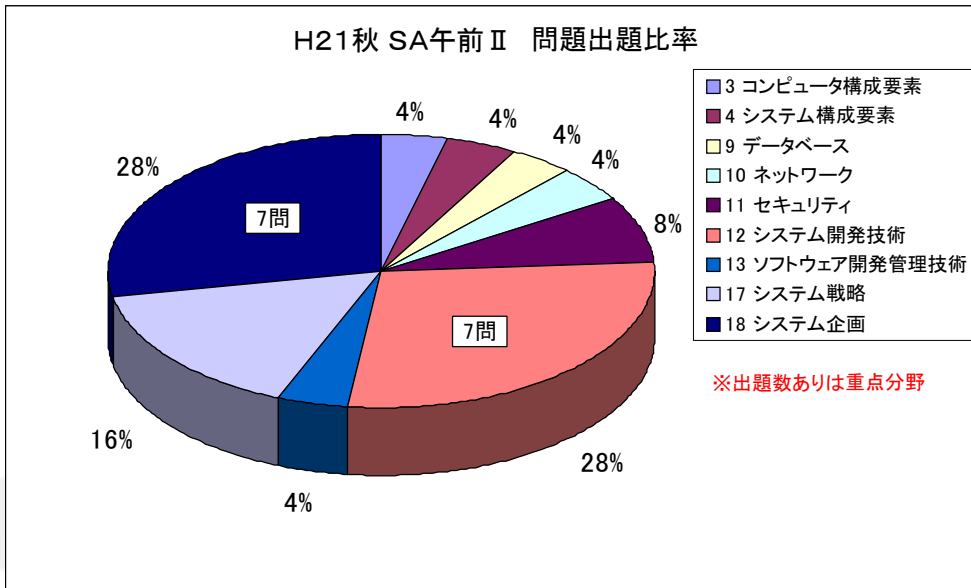


〔午前Ⅱの専門知識問題〕

午前Ⅱ試験は出題範囲が決まっています。システムアーキテクト試験ではシステム開発技術（7問）、システム企画（7問）が該当します。情報セキュリティスペシャリスト試験に比べると専門知識問題の出題比率は少ないといえ、次回以降はもう少し出題数が増えると予想します。また、システム企画分野は新試験制度で大きく取り上げられることになったテーマであり過去問題も少ないことから、他の試験に比べて新規作成問題が多かったといえます。今回の問題のレベルは後で表に示すように受験者（午前Ⅰクリアした人）の 74.9%が基準点の 60 点以上を取っており、やや易しい問題だったといえます。しかし、今後はもう少し難易度の高い問題が予想されますので、確実に試験範囲内の知識を理解しておく必要があります。

新傾向問題としては、次の問題が挙げられます。

- 問 3 要求分析・設計技法における BPMN の説明
- 問 10 特許権の取得が可能なもの
- 問 11 情報システムのアウトソーシング
- 問 12 システム化計画後のプロセス(共通フレーム 2007)
- 問 14 受注管理システムの非機能要件
- 問 16 システムの機能要件の前提となる要件定義作業
- 問 17 請書を渡すと契約が成立する書類
- 問 18 重要な品質要素を明らかにする手法
- 問 19 EA のビジネスアーキテクチャにおける DFD 作成目的
- 問 20 BI (Business Intelligence)



〔午後問題〕

・午後Ⅰ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。今回から解答数が 3 問から 2 問に減りましたが、情報セキュリティスペシャリスト試験と同様に 1 問あたりの設問数など解答する量が増えていたので、受験者負担はあまり変わっていないと思います。

・問 4 が新試験から加わった組込みシステムの出題ですが、実際の開発経験がなくても解答可能な設問内容といえ、専門知識が必要な内容ではありませんでした。組込みシステムの技術者の方達はこの問 4 とテスト計画の問 3 が解答可能だったといえます。

問 1 販売管理システム **普通**

問 2 物流システムの再構築 **普通**

問 3 システム開発のテスト計画 **やや難**

問 4 新入退室管理システムの開発 **組込みシステム開発の経験なくとも解答可 やや易**

・午後Ⅱ問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。どれも一般的なテーマでした。

新試験では各設問に字数制限付き、設問ア：800 字以内、設問イ：800 字～1,600 字：設問ウ：600 字～1,200 字となっていますので、必ず字数を守って記述する必要があります。

問 1 要件定義

(設問内容) 業務の概要、システム開発目的、ユーザ要求ヒアリング時の留意点とまとめ方、認識相違をなくす工夫

問 2 システムの段階的移行

(設問内容) 業務の概要、段階移行の方法、課題、対応方法と選んだ理由、実施上のポイントと工夫点

問 3 組込みシステムにおける適正な外部調達

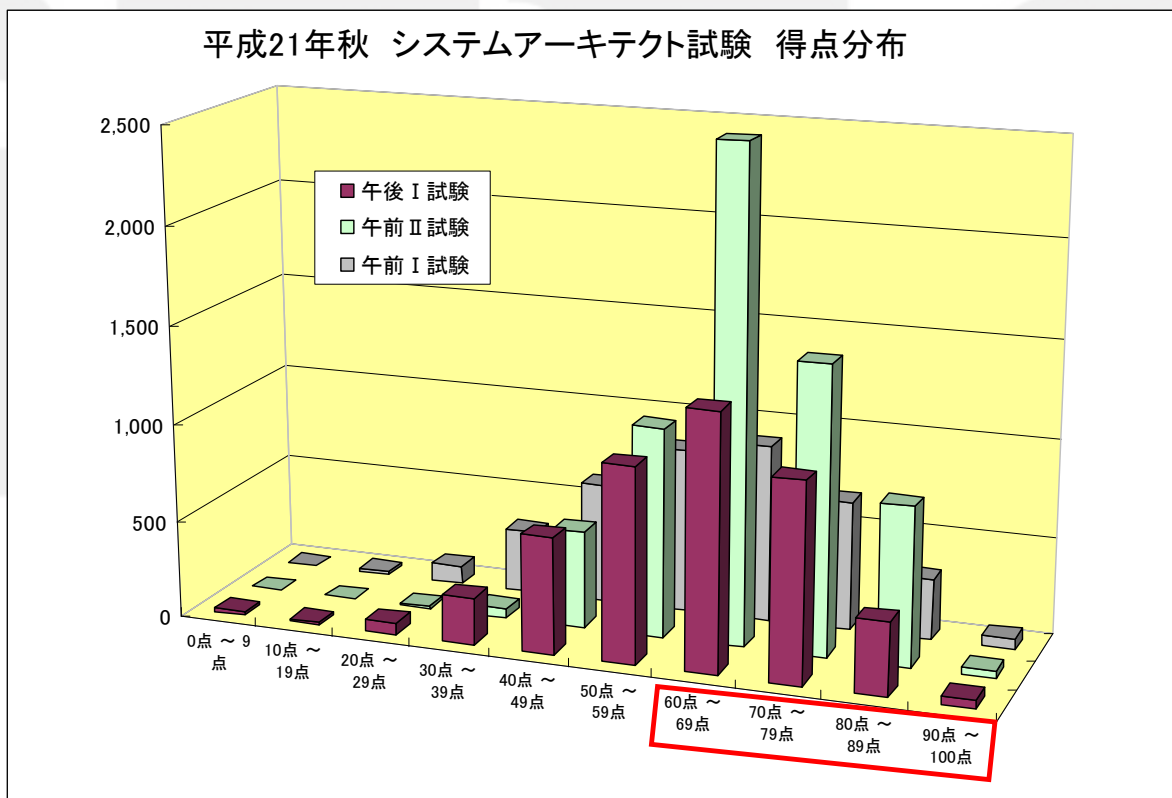
(設問内容) 組込み製品概要、必要機能外部調達の課題、課題の分析・検討・結論、完了後の評価と引継ぎ実績

[平成 21 年秋 システムアーキテクト試験 スコア分布]

平成 21 年秋 SA	応募者	受験者	合格者
人数	13,056	8,395	1,112
率		64.3%	13.2%

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後 I 試験	午後 II 試験	合格者
0 点 ~ 9 点	1	0	19	D 545	
10 点 ~ 19 点	16	2	14		
20 点 ~ 29 点	92	10	63	C 289	
30 点 ~ 39 点	325	47	240		
40 点 ~ 49 点	612	497	596	B 750	
50 点 ~ 59 点	843	1,068	994		
60 点 ~ 69 点	903	2,521	1,305	A 1,112	
70 点 ~ 79 点	662	1,466	1,012		
80 点 ~ 89 点	310	809	372		
90 点 ~ 100 点	55	39	43		
計	3,819	6,459	4,658	2,696	1,112
対前試験比率		169.1%	72.1%	57.9%	41.2%
午前 I 免除者(概数)	4,576	54.5%			

合格者数	1,112	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	1,930	50.5%	818
午前 II 60 点以上合計	4,835	74.9%	3,723
午後 I 60 点以上合計	2,732	58.7%	1,620
午後 II-A 評価	1,112	41.2%	0



新試験制度で春期の試験で午前 I 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 4,576 人 (54.5%) おり、受験者の約半数は午前 II からの受験となりました。次回の午前 I 免除者数はさらに増えると予想されます。

次に高度系共通の午前 I 試験で基準点 (60 点) 以上の方は 1,930 人(受験者の 50.5%)で最初の

試験で足をすくわれてしまった人が約半数にものぼり、予想以上に午前Ⅰ試験で苦戦した人が多かったことが分かります。次回以降、午前Ⅰ試験から受験する人は確実に出題範囲の知識を理解する必要があります。

午前Ⅱ試験で基準点以上の人は 4,835 人(受験者の 74.9%)とかなり高い率になっており、問題の難易度としてはレベル 4 といえる問題が少ないこともあり全体に易しかったといえます。他の高度試験でも同じような傾向があり、今後は午前Ⅱ試験の難易度はもう少し高くなると予想します。

午後Ⅰで基準点(60点)以上取れた人は 58.7%で、前回のアプリケーションエンジニア試験の 50.5%と比べて若干上がっていますが、大きな変化はなかったといえます。最後に午後Ⅱの論述式試験で合格点(A評価)を取ることができた人は 41.2%で、こちらも前回試験の 35.1%よりもわずかに上がっています。

午後Ⅰの試験で合格スコアに至らなかった方は、次回試験の対策として、「午前試験で出題される専門知識の理解度をまず上げる」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」ということを繰り返し行うとよいでしょう。その際、問題文に記述されている事例の概要、状況、環境、条件、問題点などが設問解答の根拠になることをよく理解したうえで問題を解いてみてください。

午後Ⅱ試験の論文で B 評価以下だった方は第三者による添削などで、事前に客観的に内容評価をしてもらうことをお勧めします(弊社の通信教育に添削サービスは含まれています)。



■合否別の試験対策と通信教育、セミナーのご案内

(今回合格された人へ)

合格された方で来春の情報セキュリティスペシャリスト、データベーススペシャリストやエンベデッドシステムスペシャリスト、プロジェクトマネージャ、システム監査技術者試験を目指す方は、午前Ⅰ試験は免除になりますので、午前Ⅱの専門分野知識についてなるべく早く試験対策を始めてください。

午後Ⅱ試験が論文となるプロジェクトマネージャ、システム監査技術者試験を受けられる方は、新試験の内容や出題範囲をよく理解して学習することが必要です。論文試験で合格点のA評価を取るためには第三者の添削が欠かせません。アイテックの通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックで出版している試験対策用の教科書(基礎テキスト)は新試験用にレベルごと分野ごとに新たに編集し直したものです。また、出題ポイントを効率的に学習するための「合格への総まとめ」、各試験別の予想問題集、本試験問題は新試験対策用に大改訂しています。これらすべての書籍が書店またはアイテックのWebページ(<http://www.itec.jp/shop/>)でご購入いただけます。ぜひご利用下さい。

通信教育コースでは、高度系の午前Ⅰ試験が免除になる方のために最適な教材(高度専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後Ⅱが論述試験のコース対象)をお得なセット価格でご提供する標準学習時間3か月の「**免除コース**」(2010年1月開講)をお勧めします。ぜひ、ご利用ください。

午前Ⅰ試験に出題されるIT共通知識のレベル3も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト(分野別全6冊)、午前Ⅰ対策用「合格への総まとめ」、専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後Ⅱが論述試験のコース対象)をすべて含んだ標準学習期間6か月の「**総合コース**」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集(予想問題集、本試験問題集)と模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後Ⅱが論述試験のコース対象)をセットにした標準学習時間4か月の「**速習コース**」ほか、各コースのeラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「**合格ゼミ**」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

◆今回残念ながら不合格だった人◆

まず、午前Ⅰの試験で50点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が必要です。時間のない方は、「2010 合格への総まとめ 応用情報・高度 午前共通知識対策」で出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。基本事項を理解していない人や苦手な分野がある人は、アイテック刊行の新試験用のレベル3の教科書（通信教育教材）でじっくり学習することをお勧めします。

今回の午前Ⅰ、午前Ⅱ試験の得点が50点～59点の人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。また、午後試験の得点が60点に満たなかった人は、まず午前Ⅱの専門知識の内容に関して、午後試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。

次に確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。新試験では選択範囲が広がったことで解答しやすくなるとも言えますので、チャンスが広がると考え、早めに対策を行いましょう。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたうえで問題を解く訓練を行うのが有効です。

通信教育コースでは、午前Ⅰ試験免除対象の方のために最適な教材（高度専門知識・午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験（2回）、論文添削（2回；午後Ⅱが論述試験のコース対象）をお得なセット価格でご提供する標準学習時間3か月の「免除コース」（2010年1月開講）をお勧めします。ぜひ、ご利用ください。

午前Ⅰ試験に出題されるIT共通知識のレベル3も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト（分野別全6冊）、午前Ⅰ対策用「合格への総まとめ」、専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験（2回）、論文添削（2回；午後Ⅱが論述試験のコース対象）をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集（予想問題集、本試験問題集）と模擬試験（2回）、論文添削（2回；午後Ⅱが論述試験のコース対象）をセットにした標準学習時間4か月の「速習コース」ほか、各コースのeラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「合格ゼミ」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース！ 合格ゼミ」

受験対策のプロの講師の講義で効率的な学習を進めましょう。

定員に近い申込者数のコースもあります。お早めにお申込みください。

<http://www.itec.co.jp/howto/seminar/index.html>

(以上)